

コクリエ・セキ

Co-Creation



ご意見、
お困り事は
こちらのLINE
からお気軽に



特集 関の高卒就職って今どうなってる？

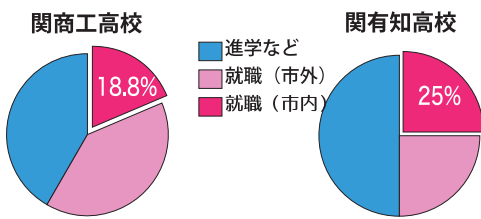
関市は若者の転出が大きな課題であり、若者の転出の主因が「仕事」であることは、調査から明らかになっています。しかしこの課題に対して、効果的な取り組みは講じられていないように見えます。過去に北村は大卒者や女性の採用について一般質問をしましたが、今回は高卒就職（近年は「早活（そうかつ）人材」とも呼びます）に焦点を当て、質問をしました。

2026 初夏 | 第 12 号

関市の現状

就職率

R8年3月卒業生の進路
(3月議会答弁での数字)



求人倍率

関商工高校
工業科：30倍
商業科：48倍

関有知高校
6～7倍



離職率

関ハローワーク
高卒就職者離職率 統計なし

全国調査 (R6) 3年以内離職率
高卒就職者 38%
大卒 33.8%
短大卒 44.0%

質問1

通常の採用活動ができない「1人1社制」について

高卒採用は「1人1社制」という規制がある。高校生は1社しか受けられず、企業も学校から選ばれた1人としか面接できない。批判も多いこの規制を、どう考えるか。



- デメリット
- ミスマッチ
 - 早期離職
 - 生徒の主体性の欠如
 - 採用のブラックボックス化

答弁

生徒が公平に就職機会を得られるよう設けられたルールで、過度および長期の就職活動によって学業などへ影響を及ぼすことを軽減する目的もある。しかし、応募先は1社に限定されることから、選択肢が狭められることも事実。ルールの見直しには慎重な検討が求められると考えます。

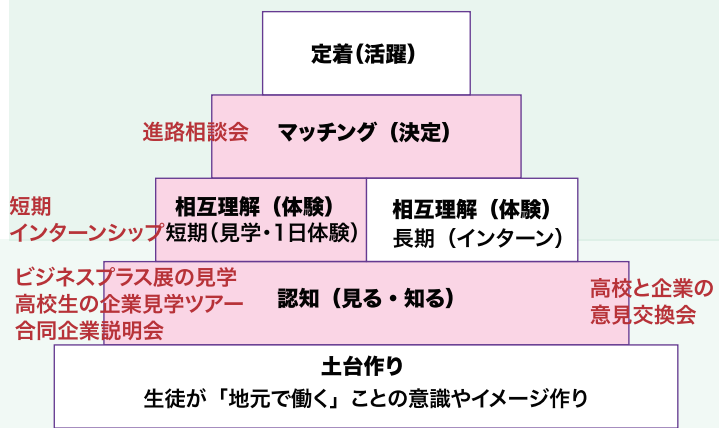
質問2

関市における、高卒支援策と成果は？

答弁

市は「みんなの就職サポートセンター」にて高卒採用の支援を実施。また、関市雇用促進協議会では学校の就職担当職員と企業の採用担当との意見交換会を開催しています。

図・高卒就職者支援のフェーズ (北村作成)



北村からの提案

答弁を受け、現在実施されている各支援策を右図へ当てはめてみたところ、「土台作り」「長期体験」「定着」への支援は未だ十分ではないとが見えてきました。そこで北村は3つの支援策を提案しました。

※徒弟制度。見習い期間を通じて、現場でスキルや知識を身につける。

「長期体験」支援策

有給で働きながら専門的なスキルと知識を学び、将来へのビジョンを明確化する アプレントイスシップ※に高校在学中から取り組んでは。

特に現場での経験が必要となる介護・福祉分野においては、介护奨学生※に取り組んでは。

関市版アプレントイスシップ

- 働きながら学ぶ
- 長期・有給
- 実践的な選択肢

介护奨学生制度 (福祉分野)

- 資格取得と実務経験
- 早期キャリアアップ
- 福祉への道

※介護・福祉の現場で働きながら学び、資格取得と将来の資金を得る。

「定着」支援策

地域同期のコミュニティ形成

- 孤独感解消
- 定着支援
- 地域同期

「土台作り」支援策

「高卒就職」は今日では有効な選択肢になっている。親や学校の意識変革も必要では。

「一般質問の様子は
こちらから」

YouTube「関市議会」
今和泉あけみ「一般質問」